2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年　１０月　３１日
● 事　業　名　：　地方における道立高校の存続と人口減少化の課題に対する若者世代への啓蒙とスキル育成
● 資金分配団体　：　認定特定非営利活動法人北海道 NPO ファンド
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人いきたす

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
アウトプット No.0.1　組織基盤強化（学生組織）	コロナ禍にて組織力低下が起きたが、それを復調させる。学生登録数の確保。参加者数及びサンプリング保持者数の確保。企画力やリーダーシップを発揮できる学生の育成	スタッフ経験者数 サンプリング保持者数 リーダー研修参加経験者数	1～3 年目	コロナの回復具合がよくなく、実施校が回復しないことから、参加できる学生数を伸ばせない。一気に世代交代のシフトを加速させているところ。	3
アウトプット No.0.2　組織基盤強化（スタッフ育成）	有効な外注者もしくは連携パートナーの発掘。 将来職員になる人の発掘。	連携パートナー；２～３カ所 将来の職員数２～3 名	1～3 年目	函館で活躍している、荘プロジェクトのメンバーとは連携できる仕組みづくりに前向きな動きを見せている。 卒業生たちとの連携で	2

				きる仕事領域も広げているところ。	
アウトプット No.0.3　組織基盤強化（情報発信力）	本事業の取り組みを対外的に紹介することにより、プロジェクトそのものが促進される。ホームページの作成等の媒体づくり。	カタリ場実施数、年 30 回 自治体高校連携状態、道内 5 カ所＋α	1～3 年目	ホームページの作成はそろそろ完成。実施回数が伸びるのは２０２３年度を見据える。自治体と高校連携の可能性が生まれそうな、地域との関係も生まれてきた。	2
アウトプット No.1.0　カタリバの授業の導入	実施校数、及び受講生徒数	初開催をした。もしくは数年ぶりに開催をした。	1～3 年目	新規開催予定が、コロナで次年度に繰り越しになる。	3
アウトプット No.1.1　カタリバの授業の次年度開催へ	実施校数、及び受講生徒数	開催 3 年間の実施を確保した状態。	1～3 年目	コロナで進展なし。	3
アウトプット No.1.2　カタリバの授業の定着化	実施校数、及び受講生徒数、学校の運営体制の変化	学年行事化から、分掌担当に切り替わる。	1～3 年目	コロナで進展なし。	3
アウトプット No.2.0　探究の授業の相談	相談件数と相談の内容	総合の時間から探究の時間へのシフト（探究を理解していない教員が理解する）	1～3 年目	コロナでカタリバの授業が少なくなった分、少し早めに動いた分野。相談件数は 5～6 校と予想より少し多めに推移。	1
アウトプット No.2.1　探究の	授業の一部を構築、実施。も	カリキュラムコンテンツが、	1～3 年目	札幌西校での探究の授	2

授業の支援	しくはカタリ場の授業を導入する過程(No.1.0,1.1,1.2)を包括することにもなる。全国高校生マイプロジェクトアワードエントリー数が上がる。	少しづつ有機的に結びついていく。教員間で他者と協力し設計段階から関わってもらう意思決定がなされる。		業の伴走に 1 年行なってきた。マイプロエントリーは、2 つの取り組みを輩出。概ね順調な滑り出しといえる。	
アウトプット No.2.2　探究の授業の設計や構築	学校のカリキュラム設計がアウトソーシングされる。カリキュラム設計時に、他者が関わる。		1～3 年目	段階的ではあるが、札幌西高の動きでは、体制が作れつつある。	2
アウトプット No.3.0　教員や行政機関への研修等	「探究の授業」等について、教員の理解が深まり、活発的な研修機会が増えていく。継続して学び続ける姿勢や時間が確保される。	研修が実施され、研修参加者の満足度が高く、カリキュラム実践になんらかの影響がで始める。	1～3 年目	4 つの学校で教員研修を実施できた。そして進路指導の研究会での講演も一度開催できた。実施校の校長の意思決定の変化も見られたという効果の情報もあり	1
アウトプット No.3.1　学校の組織基盤強化	コミュニティースクールの導入、もしくは関係分掌の整理設立、それに代わる会議等の設置。	会議等の意味がなされ始め、本格的に学校経営改革が始まる。一部の教員から組織内に役割や責任が良い方向で分散される。	1～3 年目	特に進展なし	3
アウトプット No.3.2　学校コーディネーターの配置	自治体が予算を確保し、地元高校との協議の末、ポス	2 つ以上の高校に設置される。	2~3 年目	（今年度実施予定にない）	2

	ト作りを開始して、公募等が始まる状態。			特に進展なし	
アウトプット No.3.3　コーディネーターの利活用	コーディネーターが、学校組織内等でどのように活躍していくか。	学校内で順応しつつ、カリキュラムマネジメントまで担えるような状態(No.2.1)。	3年目	（今年度実施予定にない） 特に進展なし	2
アウトプット No.4.0　マイプロジェクト北海道大会の基盤作り	北海道地方独自の大会を創設すべきかどうか。	独自大会を設置するとなれば、その運営基盤を整える。	3年目	特に進展なし、もしくは今回大会を見合わせたので、一歩後退。	3

＊進捗状況：1計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3計画より遅れている、4その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☐ 変更なし　☐ 短期アウトカムの内容　☐ 短期アウトカムの表現　☐ 短期アウトカムの指標　☐ 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）
2022/5　北海道通信社北海道教育新聞
2022/7/30　函館新聞 朝刊
2022/8/5　北海道新聞渡島檜山地方面 朝刊
2022/8/22 北海道新聞全道版社会面 朝刊

2.広報制作物等
ホームページリニューアル　https://www.ikitas.net/

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全般		特定非営利活動法人いきたす
内部	全般		Be Sun

A）事業のアウトカムの進捗状況の評価

①　短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
生徒に対して自己肯定感の変容や主要スキルが向上される。	生徒自ら導き出して行動を起こし、フィードバックを受けることの重要性に気がつく。	カタリ場実施ならびにマイプロジェクトのエントリーが増えること（具体的な数値かの設定はなし） 自己肯定感の変容や主要スキルの向上	随時	マイプロジェクトのエントリーは、札幌西校で初エントリー2つ、他道内からいくつか出場（関わってない高校からのエントリー数は把握していない）。 カタリ場の実施数は、2021 年度が 5 校9回の実施に対し、2022 年度は 14 校 19 回が予定されている。コロナ以前の回復傾向があるため、自己肯定感の変容を多くの生徒に実施できつつある。 マイプロジェクト、探究の授業、およびカタリ場の授業の連動したカリキュラム実施校がまだ誕生していないために、大幅な改善が見られていない。

教員や担当自治体職員が探究の授業についての理解が深まった状態になり、生徒への学習の機会が安定する。	生徒の変容を見て、教員間の理解も深まる。	カタリ場実施ならびにマイプロジェクトのエントリーが増えること（具体的な数値かの設定はなし）	随時	札幌西高校での職員室内部での、探究の授業についてのアレルギーは無くなった状況に変化した。生徒の探究した学習機会への課題は共有できている状態。 カタリ場を久しぶりに開催した学校で、初めて見学した教員からは概ね理解が広がっただ。
※1 やその他研修を教員向けに実施することで、探究学習の授業内容が調べ学習からの発表という類から、動機付けされ調べて行動をし、試行錯誤の中から学びが洗練され、生徒の実感に伴ったものへと変化する。	調べて考えて整理してプレゼンするという行動から、「作る」「試行錯誤する」「成功する」「失敗する」といった行為が散りばめられている状態。その数と質。	学校内に分掌が立ち上がるなど組織化され、知見が担当セクションに集約されるよう、なり始めている状態。	随時	札幌西校では、探究チームの誕生から 2 年目になり、まだまだ試行錯誤中だが、3 年実施後に、分掌を誕生させる流れを起こさせる前段階が整いつつある。 研修を実施した高校のその後の様子はまだ聞いてないが、探究への理解は広がっているように思う。
自治体が予算計画し、道立高校への支援の体制が整いもしくは見直され、その中身が授業カリキュラムなどにみられるように変化し、短期アウトカムの上記のような内容に投下される。	予算に裏付けされた、探究の授業等の内容が確立され、そこに対しての関係者が多く関わり、客観的な効果測定が地域でしっかりされている。	資金の流れが、授業立案、カリキュラム運営、コーディネータ等の人件費の支出項目が生まれる。もしくは割合が増す。	随時	これまでの 1 年半で、兆候が見られる自治体を模索する段階で、結果が出るにはもうしばらくかかる。現在、自治体が「カタリ場」の授業に予算をつける方向で、動き始めているところは 2 つ誕生し、1 つ 2 つ 2023 年度へ向けての動きがあるため、徐々にではあるが歩み出している。 北海道標茶町では、企業、大学、道立高校、自治体、当団体で連携協定を結んだため、大きな第一歩を踏み出した成果は大きい。

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
生徒数、自治体件数、高校件数、研修機会の数	2020 年度、2021 年度、2022 年度前半までの推移を記載 生徒数；427、597、494 自治体件数；1、0、2 高校件数；5、6、8 研修機会；0、2、1	2022 年度は 4 月から 9 月までの半年間の集計である。今後 10 月から 3 月までの計画から推計すると、生徒数 1300、自治体件数 3～4 、高校件数 14、研修機会は増えない予定。といったように、ほとんどの数字が上巻の予定であるため、アウトカムの達成度は徐々に進んでいるといえる。

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には ☐ 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある ☑ 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	もともと数値的目標を具体的にしているわけではない。というのもコロナ禍の環境変化が見通せないために、数値化よりも単純に数字を拾って、上がっている下がっている低迷しているという指標で見ているためだ。 状況としては数字的回復や上昇が見られるので、おおむね達成見込み、もしくは目標を上まっての達成見込みとみて良い。

B）事業の改善状況の評価

①　事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	計画通り実行できているか。	コロナ禍の状況を加味しても、ほぼ計画通り推移している。	細かなトラブルや、予定外のことがありつつも数字的推移をみて順調に進んでいる。質的変容も徐々に生まれており、標茶高校での連携協定により横展開と縦展開が考えられる。その後の動きとして根室標津へ伝播し、標津高校でのカタリ場の開催につながっている。檜山地区での初開催となった、上ノ国松前合同カタリ場も、その地区に対する影響力は大きく、上ノ国町と松前町でそれぞれ次年度予算化する動きになりそうだ。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	他県の視察などから得る。文科省からの発信、ならびに知見者から得る。	山形県と岐阜県への視察や研修に参加した。	岐阜県での集まりに参加した結果、マイプロジェクトアワード北海道大会の再開催は、やや後退させた方が良いという結論になった。地方負担が大きすぎる仕組みに変化したのがその理由だが、今後それらの原因や改善に努め、いずれ時期が来たら再検討したいとは思う。山形県での集まり、小規模校サミットの参加からは、生徒に対する学びの広がりを感じたが、教員や行政へのコンテンツが不十分であったこともあり、今後大人向けのコンテンツが充実してくるとなお良いと感じた。この場の支援は今後検討してみたい。
組織基盤強化・環境整備	アウトプット No.0.1~0.3を実施でき、中間評価はされているか。その他必要とされているものも推移しているか	おおむね順調に推移している。問題点はサンプリングデビュー者の伸び悩みで、担当学生スタッフの課題が大きい。	実施校数の回復に伴い、学生スタッフの稼働も増え、稼働するからこそ新たなメンバーが加わり、仕事スキルの獲得につながっている。また、外注スタッフや相談事も増えてきているため、組織の内外的な強化は順当といえる。ホームページも刷新したため、発信力も少しアップした。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

③ 事前評価時には想定していなかった成果

④ 事業計画の改善の必要性の確認

- ☐ 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- ☐ 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- ☐ 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇛アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- ☐ 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- ☐ 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために ☐ 事業計画は適切に改善されたといえる ☐ 事業計画を適切に改善する見込みがある ☐ 事業計画の改善について、課題が残っている と自己評価する	

⑤　中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、３～4 枚程度）